

5 折り紙について(ポスターづくり)

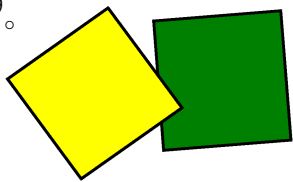
名前

小林さんは、折り紙について調べ、「資料1」「資料2」「資料3」の三つの資料を準備しました。そして、これらの資料をもとにポスターを作って、折り紙について発表することにしました。

【資料1】

日本の伝統文化、折り紙

折り紙は一枚の紙を使って、折ることだけで形を作り、それを使って遊んだり、かざったりします。そのできあがりの種類は動物・植物など多種多様で、見るだけでも楽しむことができます。



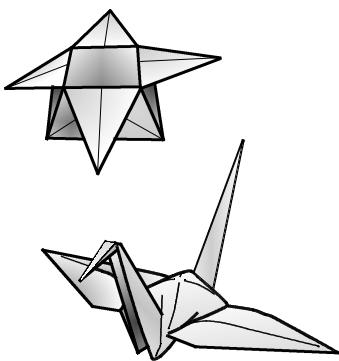
昔から、子どもにも大人にも人気がありました。今、折り紙は、世界中で親しまれていて、「オリガミ」は世界の共通語になっています。また、外国の方を招いた折り紙教室も日本の各地で開かれています。折り紙を通して日本の伝統文化を伝える国際交流がさかんに行われているのです。

折り紙には長い歴史があります。今から千年以上前の平安時代、貴族の間で、紙を使っておくり物を

(右下に続く)

美しく包むことが流行しました。これが折り紙の原点だと言われています。やがて、つるややつこなど、物の形に見立てた作品が作られるようになりました。これらは、病気が治るようになるなどの願いをこめて折られたという説があります。子どもの遊びや大人の楽しみとして急速に広がったのは江戸時代の半ばごろからです。明治時代になると、色のついた正方形の紙が折り紙として大量に生産されるようになりました。小学校の授業で教えていたそうです。

たった一枚の紙を、くふうをこらして何ものにも変化させてしまう折り紙は、世界にほこる日本の伝統文化といえるでしょう。



(「日本の伝統文化・芸能事典」などより作成)

【資料2】

折り紙についてのインタビュー

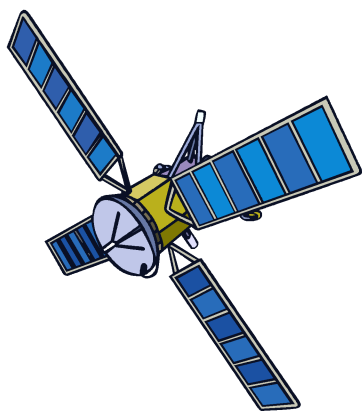
小さいときは、よく折り紙で遊びました。紙が貴重だったので、チラシやつつみ紙を正方形に切って折り紙を作っていました。今のようにおもちゃがなかったので、折り紙は何よりの楽しみでした。年をとった今も、折り紙は元気のもとです。指を動かすいい運動にもなります。折り紙を折っていると、心がなごみます。何より、折り紙をいっしょに作っている友達とおしゃべりが楽しめますね。今、リハビリなどの医りょうの方法の一つとして、折り紙が見直されているんですよ。



折り紙の技術、宇宙に羽ばたく

折り紙を人工衛星に応用した日本人がいる。宇宙工学者の三浦教授だ。宇宙空間で太陽光発電を行うためには、軽くて、しかも広い羽が必要となる。それをロケットにのせて打ち上げるわけだから、できるだけ小さくたたまなければならない。その仕組みを開発したのが三浦教授だ。

その仕組みは、一枚の紙をくしゃくしゃに丸め、それを広げたときにできるしわの研究から始まった。それは、まさに折り紙の技術そのものであった。折り紙の技術が最先端技術となって宇宙で活かしているのである。



(JAXA ホームページ、ミウラ折り公式ページなどより作成)

